

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 公民 科目 政治経済

教科: 公民 科目: 政治経済 単位数: 2 単位

対象学年組: 第3学年 組~ 組

教科担当者:

使用教科書: (政治・経済(東京書籍))

教科 公民

の目標:

- 【知識及び技能】 1 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身につける。
- 2 国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 3 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。
- 【学びに向かう力、人間性等】

科目 政治経済

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、日本国憲法と現代政治のあり方との関連および望ましい政治のあり方ならびに主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現代の日本政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	国際社会の構成と変化、国際法の役割とその限界について理解する。 ・国際連合の役割と組織、その課題について理解する。 ・冷戦体制の成立から終結に至る流れを理解させ、冷戦終結後の国際社会の変化と、その後の国際政治の動向を考察する。 ・地域・民族紛争と難民問題の実態を学ばせる。 ・軍拡から軍縮への流れと課題を考察する。	第1編 現代の政治 4章 現代の国際政治 1. 国際社会と国際法 2. 国際社会の変化 3. 国際連合と国際協力 4. 第二次世界大戦後の国際政治 5. 冷戦終結後の国際政治 (第3編8. 人種・民族問題) 6. 軍拡競争から軍縮へ	【知識・技能】 国際社会の変遷、国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、軍縮と紛争防止、日本の国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代の国際政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、国際法の果たす役割および国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○	14
	・日本の平和主義と自衛隊と関係について基本的な知識を整理する。 ・日米安全保障体制の変化について、多様な論点と異なる評価が存在することに気づかせる。 ・日本の外交の特徴とわが国のこれからの国際貢献の在り方を考える。 ・自由貿易の理論、国際収支表の各項目および日本の国際収支の特徴を理解する。 ・外国為替のしくみを理解させ、為替レートがどのような要因で変化するかを考察する。	5章 日本の平和主義と国際平和 1. 平和主義と自衛隊 2. 日米安全保障体制の変化 3. 21世紀の平和主義 4. 日本の外交と国際社会での役割 第2編 現代の経済 3章 現代の国際経済 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ	【知識・技能】 ・第二次世界大戦後の国際関係の展開と日本、地域主義の動き、軍縮の動向と課題、地域紛争と難民問題、国際社会における日本の役割について理解している。 ・考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の各主体の役割や自分自身との関わりに着目して、国際対立や地域紛争を解決し、平和を実現するにはどうすればよいか多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
2 学期	・GATT体制とWTO体制を理解する。 ・FTAなど地域主義の動きを理解させ、TPPのメリット・デメリットを考察する。 ・南北問題、南南問題の現状と課題を理解させ、問題解決に向けた各国の取り組みについて考察する。	3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. 国際経済の動向(1) 5. 国際経済の動向(2) 6. 発展途上国の諸問題 7. 経済協力と日本の役割 (第3編9. 経済格差の是正と国際協力) (第3編10. 国際社会における日本の役割)	【知識・技能】 ・自由貿易と国際分業、為替レートの変動、国際収支のしくみ、戦後国際経済体制の展開、南北問題や南南問題について理解している。 ・考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・貿易自由化や国際的な経済格差の現状を踏まえて、世界の人々のより豊かな生活を実現するためにはどうすればよいか多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現代の国際経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	14
	・現代社会において解決を求められるさまざまな課題を概観し、その論点を整理した上で問題解決への道筋を探る。 ・必修「政治・経済」の授業で十分に扱ったことができなかった内容を、復習も兼ねて補足する。	第3編 現代社会の諸課題 1. 地域社会の変貌と住民生活 2. 産業構造の変化と中小企業 3. 農業と食料問題 4. 雇用と労働をめぐる問題 5. 少子高齢社会と社会保障 6. 地球環境問題 7. 地球環境と資源・エネルギー問題	【知識・技能】 ・国際社会における政治・経済の諸課題に関する諸資料について、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・グローバル化にともなう社会変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際的な経済格差の是正、イノベーションの促進と成長市場、民族問題と紛争の解決、持続可能な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国際社会における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとし、合意形成や社会参画に向かおうとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
3 学期	問題演習	・センター試験80点、私大一般70点を目標に問題演習を行う。 ・計算問題に特化した演習も行う。					14
合計						70	